

## 外交書類の要旨

2023年版外交書

の要旨は次の通りで

す。

【東欧認識】国際社会は歴史の「転換期」である。中國など新興国、途上国が「頭はパワー、バランスの変化をもたらし、地政学的な国家間競争が激しさを増してくる。国際協調の潮流は弱まっている。

一部の国家は急速かつ不透明な軍事力の強化を進め、独裁の歴史観・価値觀に基づき既存の国際秩序に対する挑戦的姿勢と並んで主張を強めている。

国連は試練の時にある。安全保障理事会はロシアによるウクライナ侵略に有効に機能していない。既存の国際秩序に対する力による挑戦は、欧洲に特有の課題ではなく、東アジアを含む世界中のどこにおいても生じ得る。

【安保3文書】国家安全保険戦略の下、日本は防衛力の抜本的強化に囲打ちされた力強い外交を開拓し、平和と安定を確保する。具体的には、日米同盟の下、戦略レベルで連携を図り、あらゆる分野で取り組みを推進する。日米韓日を中心を通じ、同志国との協力を深化する。オーストラリア、インド、韓国、東南アジア諸国連合(ASEAN)諸国、北大西洋条約機構(NATO)、欧州連合(EU)などとの安全保障上の協力を強化する。

【ロシト】ウクライナ侵略は国際秩序の根幹を揺さぶる戦争で、ポスト冷戦期の終焉(じやうえん)を象徴する。国際社会が団結して対応するが重い。

要だ。極東でも軍事活動を活発化させており、特に中国との戦略的連携と相まって安保上の強い懸念だ。

力による「一方的な現状変更の試みを許さない決意を持つて、対口制裁とウクライナ支援を強力に進める。世界のいかなる国・地域にともも決して対岸の火事ではない。

国際社会としてロシアとの関係をこれまで通り維持できなくなつたままを受け、従来の対口外交を大きく転換した。交渉の難航を語られる状況ではないが、「北方領土」問題を解決し、平和条約を締結するとの方針を堅持する。

【中国】中国の对外的な姿勢や軍事動向は深刻な懸念事項だ。これまでにない最大の戦略的な挑戦で、同盟国・同志国との連携により対応すべきものだ。同時に「建設的かつ対話的な関係」を構築するため、責任ある行動を求めていく。国際社会の懸念を払拭(ふつしょく)するより強く促す。台湾海峡の平和と安定も重要な課題だ。

【韓国】国際社会における課題への対応力が増している。欧米とロシアとの間で中間的な立場を取ったり、対口制裁に積極的な傾向を示したりする点で共通性がある。先進国として國力を強化し、相手が眞に必要とする協力を模索していく。